

第 15 回 ISOE 運営委員会議事概要

開催月日：2005 年 11 月 7 日（月）～10 日（木）

場 所：JNES（東京、日本）

出席者：付属書（参加者リスト）参照

議事概要：

委員会の開会にあたって、ジーン-イヴ・ガニョン ISOE 議長氏が参加者に対して歓迎及び開会の辞を述べた。また、JNES 特任参事の水町涉次期 ISOE 議長が、参加者の来日と JNES への訪問を歓迎すると述べるとともに「日本の原子力施設の運転状況」の冊子を全メンバーに配布した。なお、運営委員会に引き続いて、ATC ALARA ワークショップと浜岡原子力発電所のサイトツアーが 11 月 9 日から 10 日まで浜岡で行われた。

1. NEA 放射線防護・公衆衛生委員会(CRPPH)の活動

事務局より NEA CRPPH の活動状況が報告された。3 月の CRPPH 会合では、ジーン-イヴ・ガニョン ISOE 議長が ISOE の 2004 年の実績と 2005 年の計画を報告した。CRPPH は ISOE による要求と提案の検討に感謝し、ISOE によって引き受けられた業務に注目している。

2. 国際原子力機関(IAEA)の活動

カマー・ムラビット氏(IAEA)が IAEA の活動状況を報告した。IAEA は、新しい ICRP 勧告の草案に情報を提供し、ネットワーク化など 14 の活動から成る職業被ばく防護のための国際行動計画に関連する活動をリードしている。放射線防護の基本安全基準(BSS)の検討状況が報告された。

3. 2005 年の ISOE の実績

以下の 2005 年の ISOE 活動の実績が報告された。

データ収集と管理：実績文書に記載されているデータのレベルが運営グループに報告された。特に ISOE 2 データ収集の改良の必要性が指摘された。

技術センターの活動：ベンチマーク訪問、ALARA シンポジウムの計画、中国と韓国との地域協力の努力、ISOE 3 データベースの整備のための努力、新しい国の ISOE への参加をめざした努力等について技術センターの活動が報告された。

ISOE ニュース：2005 年の ISOE ニュースの発行情況が報告された。

ISOE ALARA シンポジウム：2006 年国際 ALARA シンポジウムがエッセン(ドイツ)で開催される。2006 北米 ALARA シンポジウムは 2006 年 1 月にフロリダで行われる。ATC はこの運営委員会と同時に最初の ISOE アジア ALARA シンポジウムを主催した。このワークショップは本格的な地域協力と情報交換に向けた重要な催しであった。

UNSCEAR への ISOE の貢献：共同事務局が職業被ばくに関する 2007 年 UNSCEAR 報告書への ISOE の貢献の状況を報告した。

4. ISOE 第 14 年次報告書と第 15 年次報告書の作成

共同事務局から第 14 年次報告書の草案が提示され、一部データの追加を条件に承認された。

また、第 15 年次報告書をよりタイムリーに確実に作成するために、データをタイムリーに提出するための要件および予想される話題と作成方針について議論が行われた。

5. ISOE 規制者副議長の選挙

運営委員会より現在の副議長、ナ博士(KINS、韓国)の任期終了が報告された。次の 3 年の任期に対して、ヴェリ・リヒルマ氏(STUK、フィンランド) を満場一致で選出した。

6. ワーキンググループ報告

戦略的計画のワーキンググループ(WGSP)

カール・ゴラン・リンドヴァル WGSP 議長が活動報告を行った。ISOE の目的達成のための仕事の進め方の提案が議論され、ユーザのニーズを明確にするボトムアップ・アプローチが重要である事が同意された。

ISOEDAT-ウェブワーキンググループ

データベース ISOEDAT のウェブへの移行作業の状況が報告された。ETC は提案されたウェブ上の ISOEDAT-MADRAS(英語版)を実演した。

データ分析ワーキンググループ(WGDA)

セルジオ・ゾリーラ氏(議長、WGDA)が前日の WGDA の会合に関する概要を提示した。運営グループはソフトウェア開発、データ収集、技術的な分析、および刊行物の種類における様々な話題を含む、WGDA から用意されるべき業績の種類について議論した。

7. 提案された 2006 年 ISOE プログラム

提案された 2006 年の業務計画が議論され、わずかの変更で承認された。

8. 国別報告と関心のある分野

各加盟国より、この 1 年間の国と地域の主な出来事が報告された。

9. 次回会合

次回運営委員会は IAEA の主催により、**2006 年 11 月 6 日から 10 日にウィーン**で開催される。

2005 ISOE アジア-ATC ALARA ミニワークショップ

運営委員会に続いて、最初の ISOE アジア ALARA ワークショップが 2005 年 11 月 9 日に浜岡(日本)で開催された。ATC によって組織されたこのワークショップは 14 ヶ国からおよそ 55 人の参加があった。地域の連携と交流を促進する目的で、ワークショップでは 3 つの国際的なプレゼンテーションと共に、日本の事業者代表による日本の現在の取組と良い慣行の話題に関する 6 つのプレゼンテーションがあった。日本の事業者によるプレゼンテーションの品質を確認するために ETC は、彼らの中から、顕著な論文の賞を受け 2006 年国際 ALARA ワークショップで論文を発表する一人を選択する事を自発的に決めた。ETC は他の欧州の参加者と相談して、樫本 康之氏(四国電力会社)によるプレゼンテーション「伊方原子力発電所 1 号機の RV 炉内構造物交換時の放射線被ばく低減対策」を選択した。ワークショップの締めくくりに、水町氏は全参加者に感謝して、継続的な国際情報交換を奨励した。

付属書 1 : 参加者リスト

第 15 回 ISOE 運営委員会
JNES、東京(日本)、2005 年 11 月 7 ~ 10 日

カナダ	ガニヨン、ジーン-イヴ(Gentilly-2 NPP)
フィンランド	リヒルオマ、ヴェリ(STUK)
フランス	カスノン、オリピエ(IRSN) ダセンゾ、ルーシー(CEPN/ETC) ラフォーレ、クリスチャン(CEPN/ETC)
ドイツ	キャプテイナット、ハインツ-ピーター(VGB-Powertech) カウラード、ヨルク(GRS)
日本	原口 和之 (Tepco) 林田 芳久(JNES/ATC) 小森 一弘(JNES/ATC) 牧平 淳智(Tepco) 水町 渉(JNES) 佐藤 昇平(JNES) 菅谷 淳子(JANUS)
韓国	ナ、セオン-ホ(KINS)
メキシコ	ゾリーリャ、セルジオ(Laguna Verde)
ロシア連邦	ベツルコフ、ボリス(Rosenergoatom)
スペイン	ゴメス-アルグレロ、ビートリッツ(Tecnatom) ラバルタ、テレサ(Consejo de Seguridad Nuclear)
スウェーデン	リンドヴァル、カール・ゴラン(Barseback Kraft AB) ソルストランド、クリスター(Oskarshamn) スヴェルドヴェルグ、トーグニー(Ringhals AB)
スイス	ジャーン、スウェン-グナ(HSK)
合衆国	ミラー、デヴィッド W. (DC Cook Plant/NATC) ショフィールド、R.スコット(Sun Onofre NGS/NATC)
共同事務局 :	
IAEA	ムラビット、カマー
NEA	アヒール、ブライアン